

2 協議事項

(1) 豊岡地域のまちづくりの検討と推進について

本日の協議の流れについて事務局から説明があった。

ア 令和4年度豊岡地域で実施される課題解決の取組について

イ 豊岡まちづくり推進プログラムについて

次第2 - (1) ア及びイの内容について、同時進行により協議を進めることとなった。

高嶋会長の進行により、豊岡まちづくり推進プログラム（資料1）の内容にそって、現行のプログラムの内容に係る修正点の有無等について、各項目ごとに意見を求めた。

同時に、事務局より、愛あい（子どもの居場所）づくり事業（資料2）、豊岡まちづくりウォーキング事業（資料3）、地域ふれかつマップ作成事業、地域安全見守り事業（資料4）、豊岡消防団活性化事業の進捗状況について報告があった。委員からの発言は次のとおり。

【会長】

以前実施していた「まちフェスタ」については、今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施できなかった。この件について今後どうするか、今後の課題に関わってくると思うので、このあたりについて御意見があれば伺いたい。

（委員からは、特に意見は無かった。）

【会長】

本日は、色々な項目について検討してもらったが、時間のあるときに資料に目を通していただき、今後どうしていくかについて、次回の協議会にお話し願いたい。

(2) その他

事務局より「地域まちづくり体制の見直し」についての協議を行う旨が伝えられ、冒頭に、林市民生活部長より協議内容の趣旨を含め、挨拶があった。

【市民生活部長（挨拶要旨）】

- ・現状のまち協は「市が設置している懇談会」として位置づけられている。地域主体のまちづくりを進めていく上で、受け取り方も様々であり、役員の方々の負担感も感じられるようになった。
- ・町内会の加入率低下も実態としてある。まち協の活動を継続してもこの現状は変わっておらず体制の見直しが必要だと感じている。
- ・豊岡地域では、本日報告があったような様々な活動が行われ、一定の成果も感じられるが、広く全体で見ると思うような取組ができていない地域もある。このような状況をうけて、あらためて問題提起させていただきたい。

部長挨拶終了後、事務局から、旭川市が提示する「地域まちづくり体制の見直し」について説明があった。意見交換の概要は次のとおり。

【委員】

- ・地域活性化という大きな課題に対し、何をもって「活性化」というのかわかりにくい。
- ・今のまち協について思うことは、地域団体が主体で構成員となっており、その団体役員も高齢化し、新たな発想が出にくい状況。ロータリークラブなどに依頼するのも1つの方法かと思う。
- ・地域の活性化のイメージがわいてこない。住民の考えも多様化し、地域住民が率先して何かを成し遂げるといような目標をつくるのが難しい。

【委員】

- ・アンケートの回答にまとめられているような、地域の課題・問題点（担い手不足、町内会の加入率の低下など）は、10年以上同じ状況が続いている。この状況を、行政がどのように考えているのかが問題。根本的な部分を見直さなければならない。
- ・今後もまち協が続くのであれば、市民委員会のサポートをする体制となればよい。現状とは違う形で、もっと若い年代の方に関わってもらいたい。

【委員】

- ・市民生活部長に伺いたい。「地域設置組織」という方向で進めた場合、地域活動に関わる地域間の格差が生まれることは、やむを得ないとして市は了承する理解でよろしいか。

【市民生活部長】

- ・地域活動に関わる地域間の格差が生じることは感じている。最終的には、地域によって、できることを選択できるような形を示し、それぞれの地域と相談しながら、各地域においてふさわしい形ができればと感じている。地域間の違いは、格差というより、地域毎の「やりかたの個性」とであると捉えている。
- ・活性化という言い方は適当ではないのかもしれないが、自分たちが自発的に楽しいことをやりたいとか課題を解決したいという取組が生まれるような地域の空気感ができる。担い手や取組の参加者に熱さが出てくるということを目指したい。

【委員】

- ・社協の関連であるが、地域の病院理事長から、当該病院施設を地域の避難所として活用できないかとの提案があり、現在複数の地区社協が連携し独自の避難計画を作る話を進めているところ。現在存在する要支援者リストの活用も検討している。このような取組のように、地域の広がりを持った活動も地域の活性化と言える1つの方法かもしれない。
- ・福祉だけを考えても一律に支援するのは難しい。個々に求める内容が違う分、考える組織も増える。そういった複数の組織を結びつける事も、地域の活性化に繋がっていく。

【委員】

まち協の立ち位置がわかりにくい。何のために作ったのか。

【市民生活部長】

昔は、町内会が地域の困り事を聞いたり地域イベントを実施する組織として担っていた。現在は町内会の加入率の低下や困り事の多様化等、状況が変化し、町内会などの地縁団体だけではなく、様々な組織や地域関係者の意見を集約しながら地域の方向性を考える役割をもつ組織として「まち協」をつくった。

【委員】

もう少し一般市民でもわかるような形にした方が効果があると思うが、今のままでは地域が活性化するとは思えない。

【市民生活部長】

そのような反省も含め解決していかなければならない。地域で活動する皆さんが必要だと思われるような組織にしていくために、皆様からもアドバイス願いたい。

【委員】

- ・自分は、地域で活動している方々や団体を知りたいと思い、公募でまち協委員に就任した。
- ・自分が関わっている「愛あい」は、参加した子ども達が楽しそうで、とても素敵な組織だと感じている。子ども食堂や学習支援などもできたらと思う。
- ・まち協委員としての情報交換の場があったらいいと思う。

【委員】

- ・東部まちづくりセンターの役割を、広報に載せてもっと周知したら良いと思う。
- ・地域にはいろいろな大変な思いをしながら生活している方がいて、一人暮らしの方や、病んでいる方もいる。そんな方々の見守りは必要。地域で一人暮らしの方を孤独死させないための繋がりづくりを大切に、東部まちづくりセンターにも自由に出入りするなど、市役所の施設が身近な存在になると良いと思う。

【委員】

- ・朝の登校時の見守りを行ったが、去年は、まち協中心で行い、今年は、地域の一組織である学校運営協議会中心で行った取組を、まち協がバックアップする形となった。この流れが、当初目指していたまち協の組織づくりや役割なのではないかと感じた。
- ・学校によっては、地域コーディネーターが配置されているところがあり、その方には給料も支給され、日常は学校の職員室に勤務している。例えば職業体験などで地域の方と繋がりたい場合

には、その方がセッティングしてくれる。旭川の現状としては、人件費などの財源確保が困難な中では、各学校に1人、コーディネーターをおくのは難しい。そうであれば、まち協のなかにこのような役割を担っていただける方がいれば、学校としてはとてもありがたい。

【委員】

・子ども達は、自分の住んでいる町になにがあるかということを知ることがない。自分自身も大学で福祉の勉強をする中で「まち協」の存在を知った。取組を通じて子ども達に地域のことを伝える機会があるとしたら、今後成長して大人になった時に良い影響になると思う。

【委員】

・学校関係も、もっと市民委員会を頼って、活用してほしいと思う。

【委員】

・高齢者の相談状況については、以前は親族からの相談が多かったが、最近は核家族化や独居高齢者も増え、知人や民間企業、町内会長さんなどからも相談されるようになった。

・また、複合的な課題を抱えた世帯を支援するというケースが最近増えていると感じる。

・地域活性化については、自分の専門分野（高齢者支援）以外の部分はまだ勉強不足なので、具体的な成功例などを聞かせていただくことで自分の意見も出せるようになるのではないかと感じている。

【会長】

・それぞれの団体で希望的観測などをもっていると思うが、全会一致で物事を取り仕切るというのは難しいので最大公約数の考え方を求めるような方向で良いのではないかなと思う。

・現在実施している事業自体は、非常に喜んでもらえているので積極的に我々も取り組んでいきたいと思う。

・まち協の方向性については、官が主導せずに地域がまとまることは難しい。今後も、まち協担当職員のアドバイスは必要。そして、委員の皆さんからも御意見を聞きながら進めていきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

【事務局（事務連絡）】

・豊岡まちづくり推進プログラムについて

・地域まちづくり体制の見直しについて

・次回協議会の日程について

3 閉会